

フィンランドのまちづくり

講師：筑波大学教授 小場瀬 令二氏

2003年4月4日

日時：2003年4月4日(金) 午後6時30分～8時30分

テーマ：フィンランドのまちづくり

報告者：小場瀬 令二氏(筑波大学教授)

会場：国際建設技術協会 6階会議室

出席者：海老塚、山下、高橋、松岡、石原、横尾、松岡、佐々波、青木、大熊、持田、柴田(好)、横堀、柴田(教)、首藤(計15名)

1. 講義 フィンランドの街づくりの歴史と仕組

1809年ロシア支配下後

スウェーデン王グスタフ・ヴァーサが都市建設を命じてから数百年、バルト海の支配権を巡る戦いはロシアが勝利を収め、フィンランドを統治することとなる。当時のロシア皇帝は新古典主義の都市計画を行わせる。その計画にはスウェーデン人建築家やドイツ人建築家が参加し、19世紀半ばに都市の重要な構造が完成された。

ロシア革命後独立

フィンランドは独立を果たし、ナショナルロマンティズムの(建築に基づいた)都市計画を行う。この時期、鉄道と工業が発展し、住宅地開発も盛んに行われた。そして都市構造の明確化が行われた。

郊外住宅地

スプロールを防止するために建築家サーリネンが開発業者と協力し郊外住宅地の計画を行う。これは近代都市計画の先駆けの計画と呼ばれている。

タピオラ田園都市

1945年に建設された田園都市でワンセンター方式の集合住宅を主体とした住宅地として計画された。森に集合住宅を沈めた集合住宅。全体には低密度で、各建物は、高密度で都市的

近年の住宅開発パッシラ

副都心として計画された住宅地である。東側と西側に分けられて計画され、東側の人工地盤の計画は立体交通を目指したが評判が芳しくなく成功しなかった。西側は駐車場を核シェルター兼用として計画し、歩道が地上の形態となっている。昼の駐車場あパークアンドライド用に利用。

また HITAS という仕組によって住宅地の価格と質を制御している。

ピックフオパラティ

試験的に環境共生の仕組が導入され、ミックスコミュニティなど様々な実験的な試みが行われている住宅地である。

ヴィーッキ

本格的に環境都市として計画された住宅都市であり、特徴として緑のネットワークが形成されている。また地域全体で省エネルギー、エコロジー、ライフサイクルコストを

フィンランドのまちづくり

講師：筑波大学教授 小場瀬 令二氏
2003年4月4日

重視している。

この他ボーサーリ住宅地とパイバーpunk住宅地についても説明した。

2. 補足 - 質疑応答等

質問 - ヘルシンキの再開発について

都市内部を開発している。特に工業再配置などを行い、それに伴い生じた工場跡地などのブラウンフィールドの開発が盛んである。

質問 - 計画決定の合意形成について

フィンランドでは開発権は地方公共団体が持っており、ヘルシンキ市のような大きな都市では多くの都市計画家を抱えて、計画作業に当たっている。計画は住民の合意を得られないと実行されない。計画策定のプロセスに関しては市議会が組織した建築委員会が計画の内容を検討し、市の計画者に是正点などの指示を与えることができる。市はその点について修正し、再度建築委員会に提出する。その作業は繰返し行われ、公開されたプロセスの中で行われる。市民にも回覧させ、意見交換の場も設けているため意見を発表することができる。案に対して合意できない場合、市民が対案を出すことも可能である。

最終的には議会で承認され、計画が実施される。

(文責：首藤)